

RCIJ シラバス

- Syllabus2022 -



RC 技能認定第 1 種

改定：2022.05.12

● 講座の目的と到達目標

RCIJではリスクコミュニケーションを、「**有事の際に内外のステークホルダーと、適切なコミュニケーションを図ること。これを迅速に実現するため、平時より準備を進めること。**」と定義しています。

認定講座の目的（ねらい）は平時/有事それぞれにおいて、リスクの可視化と対策を軸に、各専門領域のセクションや人材とコミュニケーションをはかり、広い視野で会社や組織の《危機に対する万全の状態》を実現・維持する人材を育成することです

● 講座の種類と特徴

基本的な要素を抑えることを目的とした、未経験者でも受講可能な「RC技能認定第1種」と、2年以上の実務経験を踏まえて、外部に有償でアドバイスできる知識を習得できる「認定RCアドバイザー」、5年以上の実務経験を踏まえて、RCIJの資格認定のプログラムにて、講師を務めることが可能なレベルの知識及び実践を習得できる「認定RCエキスパート」の3つの階層による認定資格講座になっています。

● 授業の方法（講義・演習）

全てオンラインによる講座として実施し、質疑応答は事務局を通して行えます。

● 課題の提出方法と提出期限

講座終了後、受講期限内（アクセス権付与より120日以内）に課題を提出します。

- RC技能認定第1種 : 小テスト（選択問題）
- 認定RCアドバイザー : レポートまたは小テスト
- 認定RCエキスパート : レポート、小テスト、面談試験

● 受講条件：受講するために必要な知識とスキル

- RC技能認定第1種 : 未経験者から受講が可能
- 認定RCアドバイザー : 「RC技能認定第1種」資格保有者、もしくは2年以上の実務経験を有しRCIJ理事による審査を通った者

● 開講日

全8回（全てオンラインにて開講）

● 受講料

RCIJ 会員限定コンテンツとなります。

RCIJ 会員様：176,220 円(税込)

RCIJ 非会員様：176,220 円(税込) + 入会金 10,000 円 + 年会費 10,000 円

● 支払方法

クレジットカードによるお支払い

※ 法人支払いのみ請求書による銀行振込が可能です。この場合は事務局までご連絡ください。

※ 当講座を含む認定講座については会員であることが受講の条件となります。

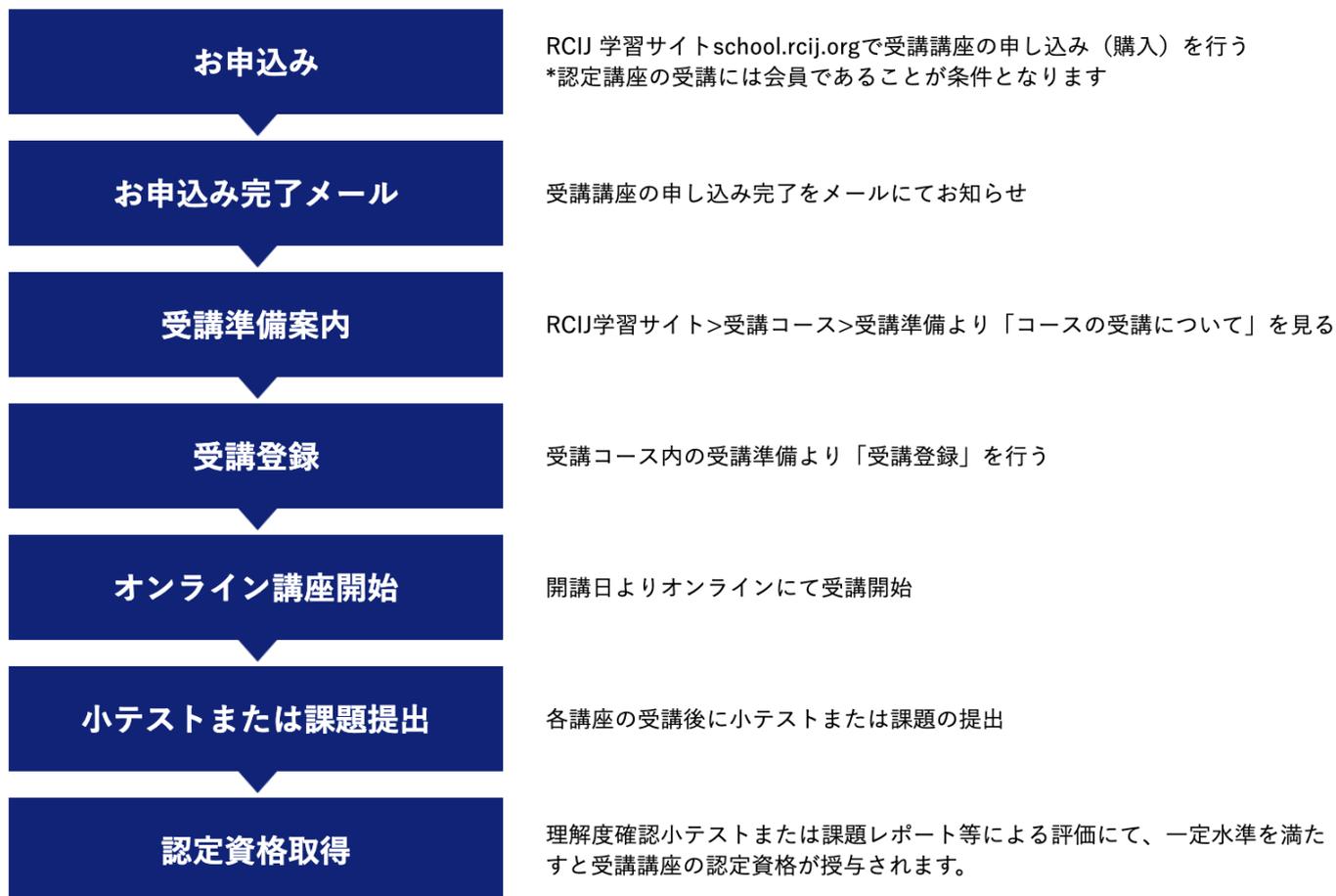
● 受講料と会員会費一覧

区分	受講料(税込)	RCIJ への入会		支払方法
		入会金(非課税)	年会費(非課税)	
個人	¥176,220	¥10,000	¥10,000	クレジットカード決済
学生	¥88,110		¥3,000	クレジットカード決済
法人	¥176,220		中小企業 ¥50,000 大企業 ¥100,000	請求書払い

※企業の区分については、「中小企業基本法」で定められている中小企業の条件を参考に大企業の定義をしています

- 認定講座の受講には会員であることが条件となります。
- お支払いが法人であっても、個人会員としてのお申し込みが可能です。
- 法人会員については同一企業で年間5名以上受講される場合や、今後開催予定の技能認定講座以外の講座を社内研修の一環としてのご利用を想定されている場合などにお薦めしております。
- 以下のケースなどにも対応しております。ご希望の場合 contact@rcij.org までお問い合わせください。
- 個人会員として申し込み：会費、受講料ともに法人負担
- 個人会員として申し込み：会費は個人で負担、受講料は法人で負担
- 学生の場合は、学生証の提示をお願いしております。

● 受講から資格取得までの流れ



● 受講環境について

 <p>パソコンとネット環境 インターネット接続用デバイス (PC、タブレット、スマートフォン)</p>	 <p>ヘッドフォン・マイク デバイスに接続するマイク、カメラ、イヤホンまたはスピーカー</p>	 <p>ソフトウェア PDFの閲覧、Word・Excelの使用 ができること（講義時にWord・Excelのツールなどを配布することがあります）</p>
--	--	---

RC 技能認定第一種 各講義の詳細

講座名	リスクコミュニケーション基礎
講師名	大杉 春子
講師経歴 自己紹介	コミュニケーション戦略アドバイザー、日本リスクコミュニケーション協会 代表理事 PR会社（レイザー株式会社）代表 民間企業・地方自治体・省庁などのパートナーとして、PR戦略の策定から広報物の制作監修まで支援。コミュニケーション戦略における「攻め」と「守り」の2軸から経営広報の施策をサポート。2020年に専門家らとともに、日本リスクコミュニケーション協会を設立。
科目のねらい・到達 目標	リスクコミュニケーションに取り組むために、必要な基礎知識を習得し、課題解決に向けてどのように活動するか知見を習得する。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスクコミュニケーションとは ・ リスクコミュニケーションが求められる社会背景 ・ リスクコミュニケーターの役割 ・ リスクマネジメントのプロセス効果
推薦書籍	「クライシス・緊急事態リスクコミュニケーション（CERC）」（大修館書店） 蛭名玲子著 「世界一わかりやすいリスクマネジメント集中講座」（オーム社）勝俣良介著

RC 技能認定第一種 各講義の詳細

講座名	リスクマネジメントと危機管理広報の基礎
講師名	白井 邦芳
講師経歴 自己紹介	<p>危機管理コンサルタント、一般財団法人リスクマネジメント協会顧問</p> <p>ゼウス・コンサルティング（株）代表取締役。早稲田大学教育学部卒業後、A I U 保険会社に入社。2009年 A C E コンサルティング（株）エグゼクティブ・アドバイザーに就任。危機管理、内部統制、事業継続、企業再生など幅広い分野で活躍。社会情報大学院大学教授。</p>
科目のねらい・到達 目標	リスクマネジメントについて学び、有事の際の具体的な危機管理広報における基礎を習得する。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危機管理広報が求められる背景（内部事情） ・ 危機管理広報が求められる背景（外部事情） ・ リスク管理と危機管理の違いとは ・ 危機管理とは ・ 危機管理広報とは ・ 失敗しないために知っておくこと
推薦書籍	

RC 技能認定第一種 各講義の詳細

講座名	ソーシャルメディアのリスクと活用
講師名	山口 真一
講師経歴 自己紹介	<p>経済学者/国際大学准教授/東京大学客員連携研究員</p> <p>博士（経済学・慶應義塾大学）。専門はデータ分析で、主な研究分野はソーシャルメディアや情報経済論など。他に、早稲田大学ビジネススクール兼任講師、(株)エコノミクスデザインシニアエコノミスト、日経新聞Think!エキスパート、シエンプレ(株)顧問、総務省・厚労省の検討会委員なども務める。2015年に慶應義塾大学にて博経済学者/国際大学准教授/東京大学客員連携研究員</p>
科目のねらい・到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアの有効な活用方法とその裏側にあるリスクを理解し、刻一刻と変化するソーシャルメディアの最新状況を把握する。 ・炎上のメカニズムを学び、自社組織内でどのようにリスクテイクしながら運用／活用できるかを考える素地を身に着ける。 ・上記を踏まえた上で、組織内にて具体的な策を講じるためにリードするノウハウを習得する。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な SNS 活用と情報社会のリスク ・炎上と企業：Withコロナ時代のネット炎上 ・データ分析が明らかにする炎上の実態 ・炎上のメカニズムと予防・対処方法 ・炎上と情報社会のこれから
推薦書籍	<p>『正義を振りかざす「極端な人」の正体』（光文社） 山口真一著</p> <p>『炎上とクチコミの経済学』（朝日新聞出版） 山口真一著</p>

RC 技能認定第一種 各講義の詳細

講座名	RCにおける法律・コンプライアンス
講師名	小川 義龍
講師経歴 自己紹介	小川綜合法律事務所所長 弁護士 早稲田大学法学部卒業。日弁連代議員・東京弁護士会常議員、広報室嘱託、広報委員会・非弁護士取締役委員会各副委員長など歴任。サイボウズ株式会社監査役。企業顧問として危機管理・コンプライアンス管理等を指導。
科目のねらい・到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ RCにおける法的に見逃せないポイントを理解し、実践の際に活用できる基礎知識を習得する。 ・ RCに関する法律を理解する。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ RCと法務 ・ リスクの分類と適用法令 ・ リスクへの法的対策 ・ BCPの法務面、そしてBCM
推薦書籍	

RC 技能認定第一種 各講義の詳細

講座名	リスクコミュニケーションに必須のIR基礎とCSR
講師名	永岡 英則
講師経歴 自己紹介	株式会社CARTA HOLDINGS 取締役CFO 一橋大学商学部卒業。株式会社コーポレートディレクション入社、コンサルタントとして加工食品、製粉、飲料、印刷、機械などの大手企業のプロジェクトに参画。 (株) アクシブドットコム (現CARTA HOLDINGS) の創業期に参画後、CFOとしてサイバーエージェントの資本参加、MBO、東証上場、資本政策全般を担う。経営統合によりCARTA HOLDINGS 取締役CFO (現任)、(株) VOYAGE VENTURES (現CARTA VENTURES) 代表取締役就任 (現任) 代表取締役に就任。豊証券株式会社社外取締役就任 (現任)。
科目のねらい・到達 目標	・ IR/CSRについて基礎を理解し、最新事例をベースにRCの観点から組織内で気をつけるべきポイントを習得する。 ・ IR担当者が意識しているポイントを理解することで、組織内連携の核を掴む。
講座概要	○ 第一部 IRの基礎 ーリスクコミュニケーターとして理解しておくべきIRの世界ー IRとは何か (全体像をつかむ) IRの主な業務内容 開示資料にはどのような者があるか IRとして必要なことー平常時と危機対応時ー ○ 第2部 CSR概論 CSRとは何か (全体像をつかむ) IR担当者として踏まえるべきこと
推薦図書	

RC 技能認定第一種 各講義の詳細

講座名	企業が直面するリスクとBCPの基礎
講師名	昆 正和
講師経歴 自己紹介	事業継続研究家 BCP/BCM策定・運用アドバイザー 東京都立大学経済学部卒業。ソフトウェア開発会社等で長年にわたって経営企画・マーケティング業務を経験。米国同時多発テロをきっかけに事業継続計画の構築・運用方法やリスク管理のあり方について独自に調査・研究を進めている
科目のねらい・到達 目標	企業を取り巻くリスクの特徴と事業への影響を探るとともに、BCPの必要性及び基本的な策定プロセス、そしてBCP完成後の運用管理（BCM）の基本について学ぶ。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日企業が直面するリスクとその影響 ・ なぜBCPは必要なのか？ ・ 防災との違いは何か？ ・ どんな体制で危機に対処すればよいか？ ・ BCPの構成と策定の基本ステップ ・ 実効性あるBCPにするための3つの活動
推薦図書	『世界はシステムで動く ―― いま起きていることの本質をつかむ考え方』（ドネラ・H・メドウズ著、英治出版）。目の前の問題を1個の独立した出来事としてではなく、お互いに影響を及ぼし合う一つのシステムとして捉え、問題の解決策を導くシステム思考の本。BCPやリスクマネジメントを考える際にも有益なインスピレーションを与えてくれる良書である。

RC 技能認定第一種 各講義の詳細

講座名	メディア社会論
講師名	木村 恭子（ゲスト：日本経済新聞 編集委員・山田剛）
講師経歴 自己紹介	日本経済新聞社 編集委員 筑波大学大学院カウンセリング修士号取得。米ブルームバーグニュースなどで記者として首相官邸、外務省、財務省、経団連などを担当。早稲田大学大学院非常勤講師など歴任。BSテレ東「日経プラス10」解説キャスターを務める。
科目のねらい・到達目標	日本と海外メディアの最新事情を把握し、メディアの立場から見るRC について具体例をもとに理解し、リスクコミュニケーターとして自社組織にフィードバックできるスキルを習得する。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記者が考えるニュースとは？ ・ 日本及び海外におけるメディアが注目した最新RC事例 ・ メディアと広報とのやり取りの具体例をもとにしたロールプレイング Case1～Case3
推薦書籍	Melvin Mencher's News Reporting and Writing

RC 技能認定第一種 各講義の詳細

講座名	財務情報と非財務情報における企業価値創造
講師名	宮下 修
講師経歴 自己紹介	<p>ジェイ・フェニックス・リサーチ株式会社 代表取締役、株式会社スカラ（東証一部上場）最高戦略責任者、CFA協会公認証券アナリスト、日本ディープライニング協会E資格取得</p> <p>早稲田大学政治経済学部経済学科卒業、ロンドン大学ベイズビジネススクールMBA in Finance、ドイツ コンスタンツ大学経済統計学部修士。野村総合研究所で10年上場大企業向けの財務アドバイス業務に従事、その後、非財務情報を株主価値と統合する経営システムを推進するコンサルティング会社スターンシュワート、メリルリンチ日本証券投資銀行部門、AIGグループを経て、2005年よりジェイ・フェニックス・リサーチ株式会社運営。株主価値と非財務情報を結び付けるITシステム開発のためにSaaS/ASP事業を行う株式会社スカラと事業統合し現在に至る。</p>
科目のねらい・到達 目標	非財務情報と財務情報の統合が、財務会計で株主との対話でますます重要になってくる理由を理解する。非財務情報と財務情報の統合を実際にも実務で社長や経営トップ層と連携して構築していくための基礎を学ぶ。
講座概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業価値の変化に伴う課題 ・ これからの企業価値創造のフレームワークの概要 ・ 投資家が最も評価する非財務情報とその作り方：企業の「価値観」「世界観」 ・ 「価値観」「世界観」をベースに非財務情報と財務情報を統合する手法 ・ IRもPRも首尾一貫し考えで経営広報に必要な要素 ・ 非財務情報とSDGsとESGの統合方法 ・ 非財務情報と事業等リスクの統合方法
推薦書籍	<p>トランスフォーメーション思考 未来に没入して個人と組織を変革する Kindle版 植野 大輔 (著), 堀田 創 = 価値観、世界観を創る手法が解説 企業価値経営 (日本経済新聞出版) 伊藤邦雄 (著) 非財務情報と財務情報の統合手法について体系的に解説</p>